

# 楽しい絆が育つ明専会に！

「老壮青男女が和氣藹々に交流する明専の絆」

明専会 会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとうございます。

明専会会員の皆様におかれましては、新しい希望を胸によいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

4年前に発生したコロナ禍は、全世界をパニック状態に陥れて、Stay Home、三密、ソーシャル・ディスタンス、緊急事態宣言など、多くの制約条件の中で、大切な家族のケアや、仕事、記念すべきイベント、さらには、経済的な損失など、大きな犠牲を被った方がおられたと拝察いたします。心よりお見舞い申し上げます。しかし、昨年5月からは、その制約条件から解放され、まずは

ほっとしているところであります。

このコロナ禍の3年間、明専会活動もかなりシユリンクせざるを得ませんでした。しかし、いろいろな工夫によって、会員同士の絆の強化と大学・学生支援については、期待以上に推進することができたと評価しております。これも、会員皆様のご理解とご協力によるものであり、感謝申し上げます。

さて、昨年一年を振り返ると、日本は、毎年のことながら、自然災害の多い一年でありました。代表的なものでは、5月の能登地震被害、6月の梅雨前線は四国・近畿・東海・関東に大雨被害、7月は秋田に大雨被害、9月の台風13号は千葉と東北に大被害、その他もあり、日本各地で多くの人的、物的被害が発生しました。自然災害の度に、明専会本部から全国の明専会支部に会員の安否や被害などを問い合わせ確認した

結果、幸いにして大きな被害がありませんでした。これも、会員各位が日ごろから災害に備えた努力の結果だと思っている次第であります。

一方、世界は年々、どんどん破壊的な方向に進んで行っています。ロシア・ウクライナの戦争は最悪な形になり、イスラエル・ハマスの戦争状態も全くひどい形になりました。

国連をはじめ、世界の警察の役割を担っていた国の力も低下して、世界情勢は、これからますます危険な状態になって行くのではないでしょう

か。そして、日本の周辺には、質量においてはるかに大きな軍勢力を有する独裁国家が存在し、常に日本に敵意をむき出しているため、少しも安心できない状況になっています。あまり期待はできませんが、今年こそ、世界が一步でも平和の方向に進んでいくことを願いたいものです。

さて、明専会が現在進めている「明専会2020基金事業」母校愛・同窓の絆強化」（原資は明専会100周年募金の6400万円）の4つの事業、

- ① 大学研究支援
- ② 学生部活動応援

③ 国際ネットワーク強化  
④ 明トラ活用による絆強化  
はいずれも順調に推進できております。

それに加えて、2025年（令和7年）に明専会は設立110周年を迎えます。これを記念する8つの事業については、すでに企画を終了し、一部は実行状態に入っております。それらの事業の基本は、いずれも明専会の絆を育み、その強い絆と母校愛で大学・学生を支援することです。その実現のためには、会員数を増やし、盤石な財政的基盤を構築すること、そして、それをベースにして、今まで育んできた明専の絆を「老壮青男女の会員が和氣藹々に交流する明専の絆」に発展させることに尽きると思います。明専会110周年記念事業でそれを大きく前進させるために、会長と小笠原特別委員長をトップとした体制で意義ある事業展開を推進して参ります。皆様の更なるご協力をお願いいたします。

末筆になりますが、皆様にとってご多幸の年になりますようお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

（いすゞ自動車株式会社 理事）